

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大切」「大事」を取り入れた事業所理念を礎にして住みなれた地域を外出したり、家族・ボランティア・馴染みの仲間に支えられ、自分らしく生きていく支援をしている	ホームの理念が作られている。毎年理念に基づき、職員の意見を反映した目標を掲げている。ホーム玄関に掲示され、外部者にも分かりやすくなっている。職員はその年の目標に沿った介護を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出入りをする地域の店の方や外出することによって交流が図れるよう努めている	併設施設の主催する「納涼祭」などに参加している。また、近くの公園への散歩は地域の方々との自然な交流につながっている。ホーム職員の子供が通う幼稚園園児との交流が行われ入居者の方々に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において検討されている またボランティアに来てくださる地域の方によって認知症の理解や支援の方法を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議によって情報交換や意見・評価を頂き、サービスの質の向上に活かしている	定期的な運営推進会議が開催されている。市への報告もされている。会議メンバーからの意見・提案などもあり、ホームよりのお願いや依頼事項なども会議の時に取り上げられ、着実に成果として結びついている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは相談できる関係を築いている 定期的な会合以外にも納涼祭等の参加を頂いている	市の職員が納涼祭に参加をしている。地域密着型についての入居者からの相談や介護保険の更新手続き等、市の職員とは連絡を常に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・身体拘束委員会への参加によって身体拘束を正しく理解できるようにしている 玄関の施錠は開錠できるように話し合いをもっている 現在身体拘束はなし	職員向けの「身体拘束をしないための」研修が行われている。職員は拘束をすることの弊害に関して理解をしている。居室の鍵はかけていない。玄関の施錠については時間帯で行っているが、鍵をかけない状態を持続できるように話し合いを持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が研修会に参加し、正しく理解できるようにしている また随時話し合い、虐待防止の徹底を図っている		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、制度の理解と活用に向けて学んでいる 必要性については関係者と話し合い、権利擁護に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書重要事項説明書の内容をご利用者・ご家族に十分説明している ホールには契約書重要事項説明書を掲示してある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会にて各関係者からの意見を運営に反映させている またご利用者・ご家族の面会時には意見・要望をお聞きする機会を設けている	職員はホームを訪問するご家族に声掛けをし、話をしよう心がけている。家族会が開かれており、意見・要望を聞いている。「かじか庵」だよりが年数回発行され、入居者の近況や行事を伝えている。外部よりの意見を頂くため玄関には意見箱が設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時気づいたことを提案し、カンファレンスを経て管理者へ報告し、対応をいただいている	昼食後の午後の時間帯に行われるミニカンファレンスで意見交換をしている。入居者への担当制を実施しており、ケアプランなどに職員の意見を反映している。職員同士の意見を聞いて自分の気づかないことなどが勉強となり、お互いに刺激を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安軽減を図り、各自が向上心をもって働けるよう指導されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修参加機会がある また資格取得希望者への支援もされている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会をもち、情報や意見の交換があり、サービスの向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においてはご利用者の安心を確保するため一コマ一コマにゆとりをもって傾聴できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることや求めていることに対し、適切に対応できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には必要とされる支援を見極め、社会資源・他サービスを含めた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念をもち、その思いを基にして関わっている 日常生活の中でもご利用者に学ぶことは多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には随時日々の生活についてお話させて頂いている また家族交流で外出されたときも様子をお伺いして共に、支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係が継続されるよう支援している 同級会に泊まりで参加される予定の方もいる	お友達が立ち寄ってくれたり、一泊の同級会へ参加する方など、入居前のつながりが継続されている。職員も入居者のおかれた状況を把握し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所前の生活スタイル・性格・レベルの差によりトラブルが生じやすいが、少人数の良さを活かし一人ひとりをサポートしている		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も利用時の情報提供できる態勢がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの意向・希望のお話を伺う時間を設けている。意思疎通が困難な方は日々の生活状況からみでの判断やご家族からの情報にて対応している	入居時に今までの生活状況を本人・家族より聞き取り記録に残している。どんな時でも入居者を主体にゆっくりとした対応で、相手の気持ちを押し量るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には生活環境や馴染みの暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時ご利用者・ご家族からお話を伺ったり、毎日職員が意見交換をし、適切に対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族・関係者の意向を組みながら職員が意見を交換し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に計画作成担当者が本人・家族よりの希望を聞き暫定ケアプランを作成し、1ヶ月経過したところで職員の意見を聞き、継続するか修正するかを検討している。三ヶ月に1回の定期的な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・申し送りノート等による職員間の情報共有を促し、毎日のカンファレンスを経てそれらを活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設との連携がとれているので、支援・サービスを受けることができる（医療連携・行事・美容等）		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんとの交流にて暮らしを楽しむ支援をしている(ハーモニカ・習字・会話等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族対応をして頂いている 本人・家族の意向で主治医の往診を受けられる方もいる いずれも状況に応じ、情報提供支援をしている	内科・歯科の協力医はあるが、原則として入居前のかかりつけ医の継続をお願いしている。入居者の希望で近所の医院に変更し往診をお願いしている場合もある。歯科衛生士によるアドバイスが月1回あり口腔ケアも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回の健康観察や随時相談指導を受けられる 看護師から必要とされる情報提供指導がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院先との情報交換・相談等を経てご利用者が安心して治療を受け、退院後の受け入れ態勢ができています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りに関する方針を整えている	「重度化および看取りの指針」があり、入居時に家族への説明が行われている。一週間に1回「健康管理の日」には併設施設医師の健康観察が行われ、入居者の状態に応じた適切な医療が提供されている。夜間帯の急変等については併設老健職員の協力体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがある ミーティング・会議などでご利用者の急変や事故発生時の対応確認をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前は合同の防災避難訓練だったが、本年度からかじか庵単独の防災避難訓練も取り入れられ、全職員が参加している	併設施設との共同で、年三回消防訓練を行っている。火災報知器が各居室やリビング等に取り付けられている。食糧は3日分の備蓄があり万が一に備えている。スプリンクラーの設置も検討している。	地震・台風など自然災害に対する対策も取り入れられることを期待します。

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間としての尊厳を傷つけないように又プライバシーについては共有化された情報の秘密保持の徹底を図っている	日常生活で不適切な言葉遣いや態度があったときにはその都度注意をするように心がけている。入浴時、男性職員の介助を望まない方には希望通りに女性職員の介助で対応している。個人情報の取扱いについては玄関に張り出され、周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レベルの差があっても自己決定・希望が引き出せるようゆったりとした態度で働きかけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムの流れを基本として一人ひとりがその日の意向や状態を優先するよう努力してる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	半数の方は職員に相談されたり、自分で身だしなみを整えている 残りの方は職員と一緒に身だしなみを整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備にお誘いするも参加されない方が多い 片付けなどは半数の方が交代で職員と一緒にいる 昼食時にはなるべく会話ができるようゆっくりと時間をかけている	同じテーブルの入居者の方に「ここは美味しいんですよ。栄養もちゃんと考えてくれるから。」と笑顔で勧められた。時間をかけて沢山の種類のおかずを完食されていた。調査日の昼食を「食べたくない」という入居者に、急遽、別メニューが用意されると「悪いなあ、ありがとう」と何度もいいとても嬉しそうに頂いていた。職員も同じものを一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量の記録をしている 水分量や栄養バランスは情報共有し、一人ひとりの対応ができるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに携わっている 特に昼食後は時間をかけて義歯を洗浄し、舌苔の除去の対応をしている 歯科衛生士の指導も受けてる		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや行為力を把握し、日中はトイレにて自然排泄できるよう支援している 誘導するときは羞恥心の強い人が多く、なるべく周囲に悟られないよう注意している 夜間は歩行不安の方にはポータブルトイレの提供をしている	多くの方が自立されている。不安のためリハビリパンツを使用する方もいるが、職員のさりげないトイレ誘導が行われていた。夜間の歩行に不安がある方にはポータブルトイレが居室に置かれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録記入はしているが、自己申告のできない方や見逃してしまう方もいるので、健康観察時には相談・指導を頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には3日に1回の入浴日となっている 複数入浴を希望される方はいない 一対一で話しながらくちり入られている	お風呂を嫌う方はいないと伺った。浴室の窓の外が箱庭になっており、気持ちがゆったりとせいたくな気分させてくれる。入居者と介助する職員との一対一で話しながらくちりの入浴が楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣としてのお昼寝への支援や食後の休憩時間を設けている 就寝前には個々の居室を訪室し、安心して眠れるように声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務室の机の上に薬の詳細書が置かれている 変更があるときはその内容が記されている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて生きる張り合いや満足感が得られるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行不安の方が多く、戸外へは少人数対応となっている 家族交流で外出の協力を頂いている	週に1度の買い物外出や月に1回の行事・ドライブを計画し、外出支援に力を入れている。買い物外出時にはスーパーで食材やおやつ用のお菓子などを職員と共にカートを押しながら買ってくる。隣接の公園への散歩は日常的に行われている。	

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活費としてお預かりし、管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご利用者の意向があれば併設施設の公衆電話へご案内している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音量・温度・明るさについてご利用者一人ひとりの受け入れ方が違うのでよくトラブルになる 不快や混乱へは個別の対応をしている	食堂やリビング、畳のコーナーと入居者の希望する場所で自由に過ごしている。高窓からさしこむ陽光や窓から見える自然から季節の移り変わりを感じ気持ちが穏やかになる。行事の写真や日本人形、庭で取れた花などが共有スペースに飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安心できる居場所の提供ができるように努力している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	古くても使いなれたダンスや家族の写真をみて安心できる居室となるようにしている	広い居室には洗面台が備え付けられている。収納場所も造りつけとなっているので、家族の方が来ても泊まれるような十分なスペースがとられている。入居者本人が書いた書道作品が貼られていたり、写真好きな方には家族より沢山の写真が差し入れられており、その人らしい居室づくりがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例として歩行は不安定な歩きでもそばで見守り、必要時には手で支えるようにして安全かつ自立されるように努力している		